

ヤポニクムでの授業実践報告 第17日目（最終日）

10月27日（木） 午前8時30分～10時10分

歌 「悲しい他動詞と自動詞の歌」
「明るい他動詞と自動詞の歌」

第14課応用練習

文法事項 他動詞・自動詞 オノマトペ

私は、今日応用練習する他動詞／自動詞を、単なる文法事項、例えば助詞の選択、動詞の活用や接続といったことを超えて、日本語母語話者のモノの捉え方（目の前の現象の切り取り方）にまで及ぶ事柄であると捉えている。

つまり、目の前の事象が私の力が及ぶ範囲で起きたことなのか、私の力を越えたところで起きたことなのかを日本語母語話者は厳密に区別する。前者が他動詞（「する系」の動詞）、後者が自動詞（「ある・なる系」の動詞）であり、具体的には、「する系」の動詞には、いわゆる謙譲語の「お～する」の形、使役形も入り、「なる系」の動詞には、いわゆる尊敬語の「～になる」や「～られる」とともに、可能形、受身形なども含まれる*。

他動詞／自動詞の問題は、自分も自然の一部であり自然やかみ（神、上）からの影響が、たとえそれが悪いものであっても抗おうとはせず、ひたすら受け入れてきた長年日本列島に住み続けた人々の世界観に通じるところがあり、日本語学習者にわかってもらうためには、極めて工夫が必要な項目であると私は理解している。

* 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
金谷武洋(2002)『日本語に主語はいらない-日本語文法の百年の誤謬を解く』筑摩書房
金谷武洋(2003)『「ある」日本語と「する」英語』筑摩書房

それで、今回は、大枠からのイメージと、他動詞と自動詞で異なる「時制」の問題と、「動作性」と「状態性」の対立の3点に絞って提示することにした。

1. 大枠からのイメージ

授業前に黒板の上段に他動詞、下段に自動詞の対立する一連の絵を貼っておいた。

上段 品物（鞆）を集める→鞆を車に乗せる→鞆の代金を渡す→鞆を店前で降ろす
→鞆を棚に並べる→鞆を売る→（鞆によって）利益を上げる→鞆の値段を下げる

下段（鞆の広告の元に）人々が集まる→人々がバスに乗る→バスが橋を渡る→人々が店前で降りる→人々が店前で列に並ぶ→鞆がたくさん売れる→鞆の人气が上がる
→鞆の値段が下がる

この絵は実は「明るい他動詞・自動詞の歌」の後半部分を表すもので、歌を歌うときに、前半部分の絵も含めて参加者に提示した。そして歌い終わってすぐに、一連の上段の他動詞の絵と、一連の下段の自動詞の絵とを比較し、どのような違いが

あるか、それぞれどのような印象を持つか、グループでドイツ語で話し合ってもらった。その後、日本語か簡単なドイツ語で言うように指示。

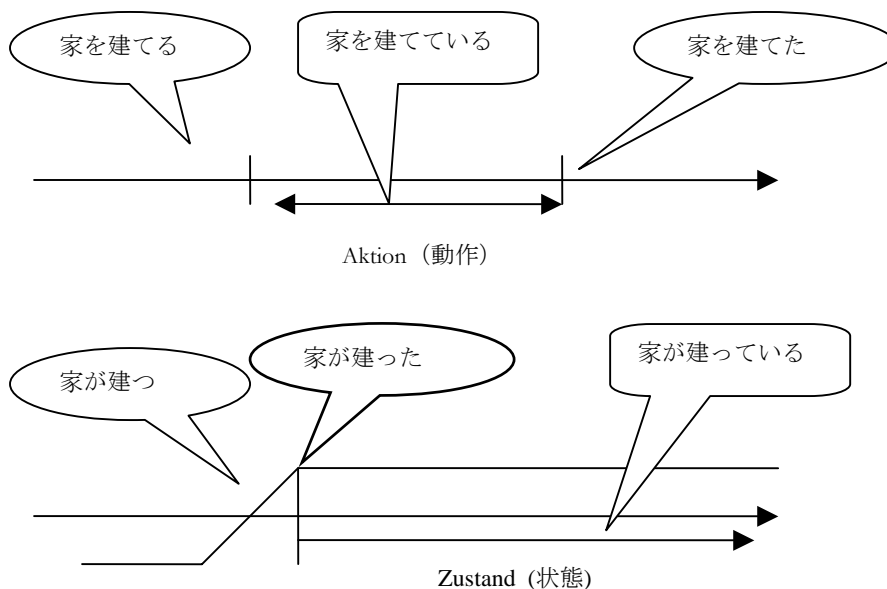
参加者の意見として、上段の他動詞の方はいつも鞆がある。同じ人がいる。下段の自動詞の方はたくさんの人が出てくる。場面が異なる。といったものが出てきた。

2. 時制のこと

他動詞／自動詞を難しくさせていることの一つに「～ている」形の時制が異なることがあげられる。つまり、例えば「家を建てる（他動詞）」と「家が建つ（自動詞）」を例にあげると、時間が流れる順番は「家を建てる」の場合は、「家を建てる」→「家を建てている」→「家を建てた」に、「家が建つ」の場合は、「家が建つ」→「家が建った」→「家が建っている」となり、「～ている」形と「～た」形の順番が他動詞と自動詞では入れ替わる。そして、「今、家を建てている」時点が自動詞で表そうとするならば、「もうすぐ、家が建つ」と言わざるを得ない。

よって、その順番の違いを黒板に書いておいた図によって提示した*。

*下記のような図に絵を追加したもの



そして、他動詞の「～ている」形は動作を表し、自動詞の「～ている」の形は状態を表すことを提示した。

3. 動作性と状態性の対立

クラスを二つのグループに分け、それぞれに封筒に入った絵カード*を渡して、その絵が動作を示すものか、状態を示すものか別けるように指示し、その後、別けたものを対にするように指示した。

*絵の下にそれぞれ「～ています」が書いてある

その絵カードとは、下記のペアである。

動作を表すもの

集めています	並べています	乗せています	入れています	汚しています
割っています	つけています	消しています	開けています	閉めています
止めています				

状態を表すもの

集まっています 並んでいます 乗っています 入っています 汚れています
割れています ついています 消えています 開いています 閉めています
止まっています

それができた時点で、青系の紙に書かれた「集める」「並べる」等、他動詞と、赤系の紙に書かれた「集まる」「並ぶ」等、自動詞の基本形（辞書系）のカードを渡し、それを絵に重ねるように指示した。

その中に、参加者から質問が出るように、あらかじめ、「置く」と「書く」といった重ねる絵のない青系のカードも入れておいた。こちらの意図どおりに質問が出た時、「書く」と「置く」は自動詞か他動詞かを参加者にたずね、他動詞であるとの答えを待ち、これらの動詞の「～ている」は動作を表す旨を確認した後、これらには対立する「自動詞」がないことを告げ、状態を表したい時には、「～てある」形にすればいいことを説明した。

ひとつおとり、絵カードや動詞カードで組み合わせができ、一つ一つ確認した後、一つのグループにまず「カードを集めてください」と指示。動作に入る前に「これから何をしますか」と質問、「カードを集めます」と参加者に答えてもらい、それぞれ、動作中に、「今何をしていますか」→「カードを集めています」、動作終了後に、「今、何をしましたか」→「今、カードを集めました」と答えさせていった。そして、そのグループではなく、違うグループに「今、カードはどうですか」と質問。「カードが集まっています」を導く。もう一つのグループにも同じ指示を出し、次に、「カードを封筒に入れてください」と指示し、同じことを、繰り返した。

その後、絵カードに書いてあったことを一人一人の参加者に実際にやってもらい、それぞれ、例えばドアを開けるように指示された本人に「これから何をしますか」「今何をしていますか」「今何をしましたか」と質問し、それ以外の全員に「今、ドアはどうですか」と質問していった。これらの活動で参加者全員がすらすらと言えるようになったのを見計らって、例えば、ドアを開けた本人以外の全員に「今、ドアは開いています」と答えてもらったあと、ドアを開けた本人に「今、ドアはどうですか」と質問、「今、ドアは開けてあります」を導く。

瞬間、動揺が走ったように見えたが、この練習を何回か繰り返したあと、絵カード等が入っている封筒をそれぞれのグループに渡し、これを使いながら、もう一度わかったこと、わからないことをグループ内で話し合うように指示した。

実は、状態を表す「他動詞＋てある」「自動詞＋ている」は初級Ⅰで紹介されており、初級Ⅰもヤポニクムで受講した参加者は、準備を表す「～ておく」の結果の状態が「他動詞＋てある」であるということを思い出したらしく、他の参加者に積極的に説明していた。

彼らが話し合っている間、それぞれのグループからの質問を受け付けていたが、その中で、一人の参加者から、対立する自動詞を持たない「他動詞」、例えば「書く」の場合、状態を表す形が本当に「～てある」だけなのかという質問が出てきた。その質問には、実は、「受身形＋いる」の形があることを紹介すると、その参加者は自分のノートと本を持ってきて、ノートを指しながら「ここに書いてあります」、

本を指しながら「ここに書かれています」と文を作ったので、そのとおりであることを告げた。すると、その参加者はすぐに他の参加者に説明しに戻っていった。

グループでの話し合いも終わり、参加者全員が「わかりました」と言ったので、普通は朝一番に行なうディクテーションに入った。

ディクテーション後、オノマトペの練習に入った。

ドイツ語の場合、例えば、見たり、笑ったりする動詞が、その細かな動作の違いにより、違う語彙になっているため、日本語では、その細かな動作の違いの部分をオノマトペで表すことをわかってもらうために、その点に絞り以下の事柄を中心に、動作を伴いながら皆で繰り返した。

「見ます、見ます、見ます。ジーツと見ます」「ちらちら見ます」「きょろきょろ見ます」「ぎょろぎょろ見ます」

「笑います、笑います、笑います、くすくす笑います」「げらげら笑います」「へらへら笑います」

「泣（鳴）きます、泣きます、泣きます、にゃーにゃー鳴きます」「キャンキャン鳴きます」「くすんくすん泣きます」「ワーワー泣きます」

午前10時40分～12時00分

Steinmuseum 石の博物館

二クラス合同で、同僚の白石が担当した。

いすを円にしておく。色々な種類の小石が入った布袋を提示し、何が入っているか質問。その後、袋を参加者一人一人の膝の上に置いたり、触らせたりしながら再び何が入っているのか質問し、参加者全員が答えるのを待って、一人一人の参加者に袋の中の石を一つだけ取るように、しかし、自分でも見ないように他の人にも見せないようにとるように指示。全員が石を取ったあと、目を閉じさせ、音楽をかけてファンタジーの旅へ誘う。

「どんな石でしょうか。どこから来たのでしょうか。考えてください…」などと教師はやわらかい声で語りかけていく。途中で、隣の人と石を交換するようにいざない、自分の石とどこが違うかなどをイメージさせる。

終わってから、目を開けて自分の石を見てもらい、隣の人と話し合い、それから、全体を4人か3人のグループにわけ、同じグループの人が持っている石はどういう関係にあるのか考えながら物語を作るように指示。

グループワークに入り、教師は補助に回る。

出来上がった作品を紹介する*。

*表記は参加者が書いたまま。括弧内の文はあとで付け加えた。

昔々あるところは、スタイナハテン（石のクリスマスという参加者の造語）の夜でした。ある町で四つの石が会いました。四つの石は友達になって、特別な料理を作りました。そのコースは焼き石鯛とヤマトリタケ（ドイツ語を直訳すると石茸となる）のソースと石のように固くゆでたポテトでした。デザートに砂利のおかゆと

種のない（ドイツ語では石がないになる）桜の実を食べたり、大理石ケーキを食べたりしました。料理は石炭で焼きました。この友達は珪土を商売するため、そのごちそうが買えました。あとで彼らは小石樂園で散歩しました。その祭りはすごく楽しかったです。しかし、石器時代は終わったから、この物語も終わらなければならない、

今から深刻な運命について話したいと思っております。

はじめまして、私は赤石です。ヒマラヤから来ました。750000歳です。イエティ（雪男）と登山者を見ました。イエティにドイツに投げられました。どうぞよろしくお願いします。

はじめまして、私は黒石です。ノルウェーの海から来ました。300000年前から寒い海に横たわっていました。たくさん魚を見ました。私はツーリストにドイツに持って来られました。だから今ボーフムに住んでいます。どうぞよろしくお願いします。

はじめまして、私は白石です。スペインの海辺から着ました。20000歳です。今まで毎日熱い砂に横たわっていましたが、残念、波が私をドイツに運んで来ました。どうぞよろしくお願いします。

私たちはホームシックにかかっているのです、石クラブを設立しました。ヒマラヤとノルウェーとスペインに行く人を待っています。もしかして、手伝っていただけませんか。どうもありがとうございます。これで遠慮がちな頼みを終わります。聞いてくださってありがとうございます。

むかしむかし、黒に黄色い点々がある石はアルプスからハンニバルの象の足でローマまで来ました。白い石に会いました。火山がばくはつした時、火山のたまごは生まれました。三こ全部の石は一緒にネパールに飛びました。

それから、ネパールが一番高い山の上に四こ目の石が住んでいました。ある日、石は庭にいた時、三この石が急に飛んできました。このあとでいつまでも友達になりました。そしてなかよくくらしました。

12時15分～

修了式および反省会

修了証書の授与、参加者からのコース全体についての感想及び質問、手締めで終了。